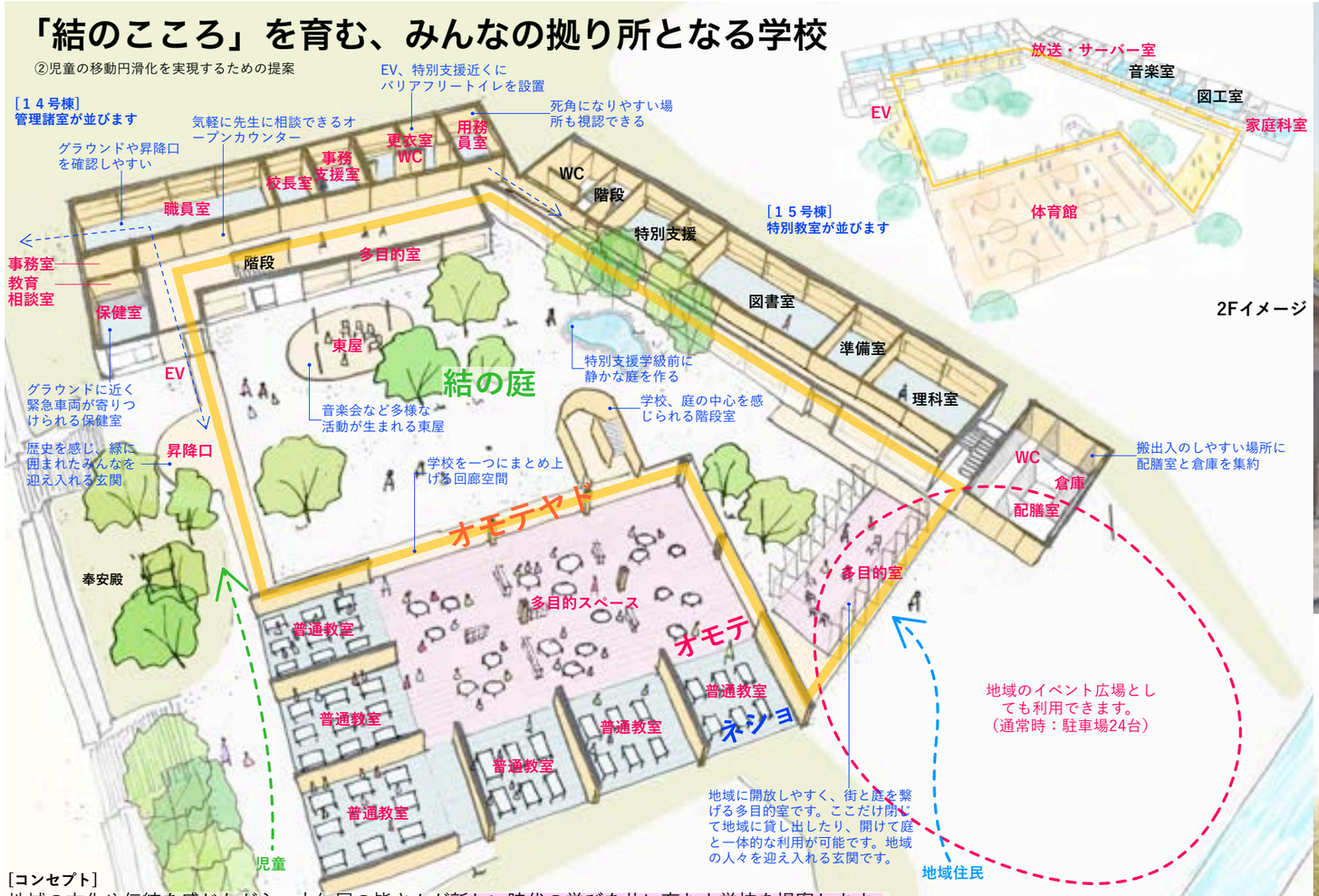
「結のこころ」を育む、みんなの拠り所となる学校

②児童の移動円滑化を実現するための提案



2Fイメージ

1Fイメージ

［コンセプト］

地域の文化や伝統を感じながら、古仁屋の皆さんが新しい時代の学びを共に育む小学校を提案します。
分散配置・オモテ・オモテヤドといった島の伝統的な建築形式が、新しい学びの空間と交流を生み出すことで、
島の人々が大切にしてきた「結のこころ」を育み、みんなの拠り所として、地域に長く愛されるシンボルとなる学校を目指します。

古仁屋小学校建築基本設計公募型プロポーザル
（第１号様式）
（Ａ-３判横）

「シマ」に浮かび、象徴となる学校

街の色々なところから見え、街の象徴となり、誰もが訪れやすい新校舎です。
浮かんだ体育館は、防災拠点としても機能し、みんなの心の拠り所になります。

体育館は「オモテ」空間

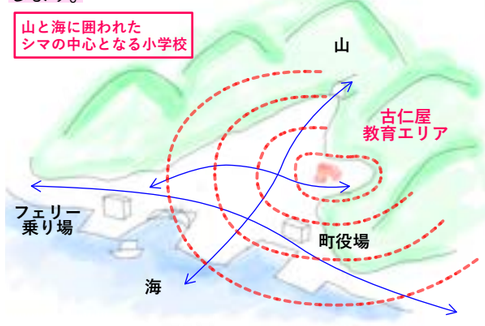
みんなを迎え入れる「オモテ」空間からは、街を一望でき地域との広がりを作り、海と山に囲まれた地形を感じることができます。

③地域に愛され、安全で持続可能な学校運営を実現するための提案

シマの中心にある学校 学びの中心となる学校

古仁屋教育エリアの中心となる小学校

山と海に囲まれた古仁屋の自然豊かな環境や地域の風土・文化を感じられる、開かれた学びの場の実現を目指します。新旧の校舎が調和した新しい小学校が、つよく、正しく、美しい子どもたちと地域の人々が共に育つ、学びの場の中心を生み出します。



歴史・文化を継承した、みんなの拠り所

1.伝統的民家の分棟配置

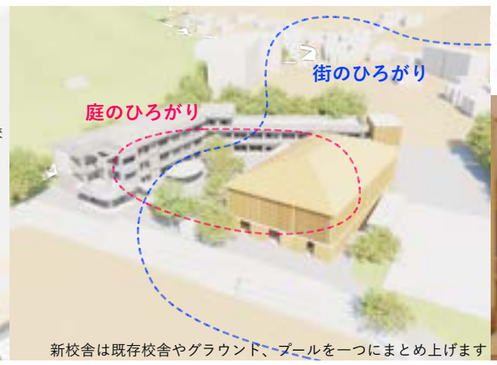
新校舎は既存校舎と一体的に計画します。分棟で離れつつも、オモテヤド(回廊)で繋ぐことで明快な動線と回遊性が生まれ、新旧の校舎の調和を生み出し、学校全体を一つにまとめ上げます。

2.人々を迎え入れる「オモテ」

門-庭-オモテヤドと続いた先では「オモテ」の空間が学校内外の人々を迎え入れ、拠り所になります

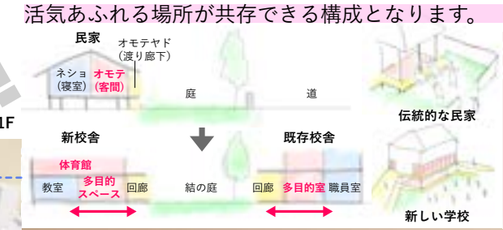
庭や街との広がりを生み出す「オモテ」

奄美大島の伝統的な民家では、道に面して近所の人を招き入れる「オモテ(客間)」が設けられ、**"内"と"外"**をつなぐ空間として重要な役割を担っていました。そこで私たちは多目的スペースや屋内運動場を異学年や地域住民との交流が生まれる「オモテ」の空間と捉え、それらが新旧の校舎がつくりだす中庭やまちと学びの環境をつなぐ配置計画を提案します。



渡り廊下で繋がれた中間領域の「オモテ」

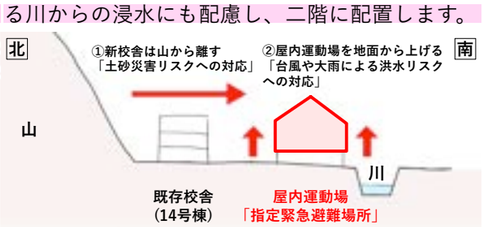
校舎内においても、集中した学習や作業を行う**"内の空間(教室・職員室)"**と活気あふれる**"外の空間(庭)"**の間に「オモテ」の空間として多目的スペースを設けます。これにより内と外がつながるだけでなく、オモテが内と外の間の緩衝空間となることで適度に距離を保つことができ、静かな場所と活気あふれる場所が共存できる構成となります。

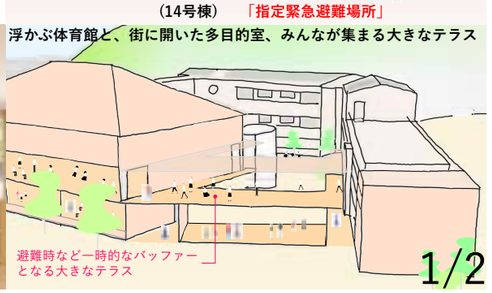


多目的スペースから渡り廊下・庭へ活動が連続する

災害に配慮し、自然と共存する学校づくり

新校舎は周辺の自然環境を踏まえ災害に配慮した計画とします。本敷地は土砂災害警戒区域に指定されており、崖崩れなどが懸念されることから、①新校舎は山から離した南側に配置します。また新校舎内の屋内運動場は地域の「指定緊急避難場所」にも指定されているため、②大雨・洪水による川からの浸水にも配慮し、二階に配置します。





生き生きと個性を育む場

教室と多目的スペースがゆるやかに繋がり、学年を超えた交流を生み出します。
協働的な学びを創出する温かみのある空間です。
内装材には鹿児島県産材の木材を積極的に採用します。

地域に開かれた多目的室

扉を開けると広場と連続し、屋内外での一体的な利用が可能です。
学校の時間とは別に、地域に貸し出すなど単独でも様々な使い方ができます。
地域開放時には、**みんなを迎え入れる玄関**になります。

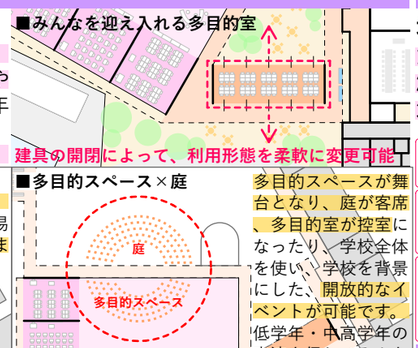
緑に溶けこむ回廊空間

昇降口は奉安殿に向かってとび出し、緑に囲まれ
歴史を感じる場所です。歴史と未来をつなげる広場の、大きな軒下空間です。

①「新しい時代の学び」を実現するための提案

子ども達の多様な活動や交流を生み出す、新しい時代の学びの空間

６つの教室をＬ型配置で１箇所に集約し、多目的スペースを大きなワンルーム空間とします。可動式家具や建具によって、レイアウトを自由に可変でき、児童数や学習形態の変化に柔軟に対応できます。また、将来少子化の進行によって、１学年１クラスとなった場合にも、まとまりある管理のしやすい計画とします。
「オモテ」の空間が庭や街と繋がり、のびやかに学習できる「シマ」の象徴です。

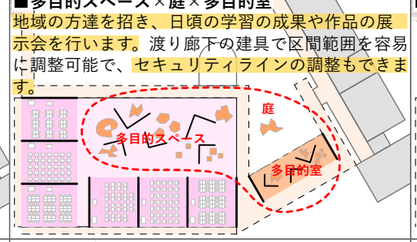


■多目的スペース×庭×多目的室×既存建物

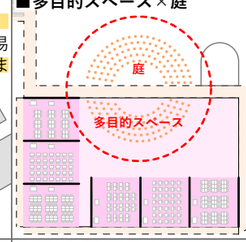
多目的スペースや新設の多目的室、既存建物の多目的室などが向かい合い、庭を介して学校を一体的に利用したイベントが可能です。活動が庭に溢れ、多様な交流が生まれます。

■多目的スペース×庭×多目的室

地域の方達を招き、日頃の学習の成果や作品の展示会を行います。渡り廊下の建具で区間範囲を容易に調整可能で、セキュリティラインの調整もできます。



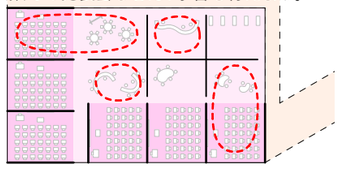
■多目的スペース×庭



多目的スペースが舞台となり、庭が客席、多目的室が控室になったり、学校全体を使い、学校を背景にした、開放的なイベントが可能です。低学年・中高学年の交流を促し、みんなで豊かに育つ環境が生まれます。

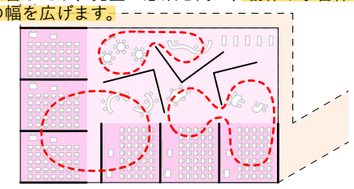
■個別利用（クラス単位の授業・小グループICT）

大きな活動スペースが必要な際に多目的スペースを区切って教室空間を拡張することが可能です。
少人数での発表会などICT学習も行えます。



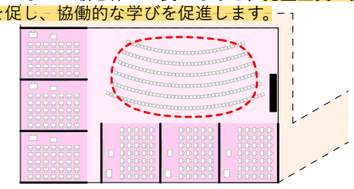
■グループ利用（学年ごとの創作・学習体験）

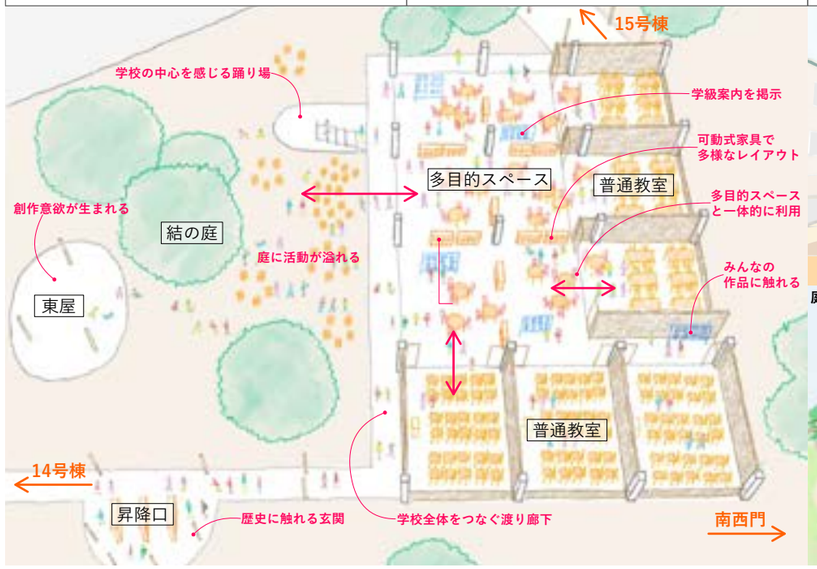
学年ごとに創作活動したり、ICTを利用した調べ物学習したり、児童の意欲を高め、創作や学習体験の幅を広げます。



■一体利用（全学年のイベント）

多目的スペースの稼働間仕切りを解放し、音楽会やみんなでご飯を作って食べるなど、児童全員の交流を促し、協働的な学びを促進します。





「オモテ」空間が立体的に庭や街と繋がります

庭にとび出し、緑に囲まれた中心を感じる階段室

③地域に愛され、安全で持続可能な学校運営を実現するための提案

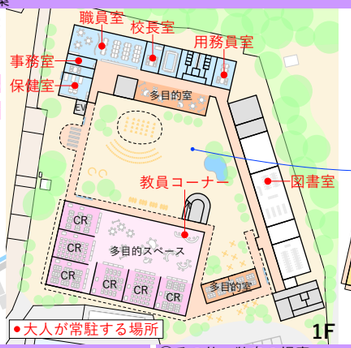
地域みんなで子どもを育て・見守る学校

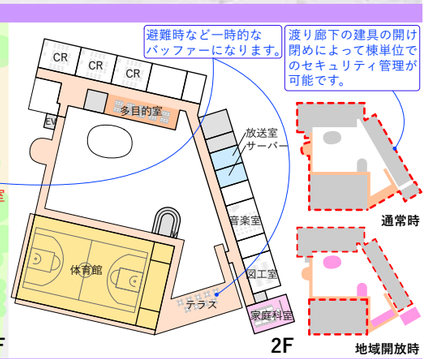
1.歩車分離により安全な通学動線の確保
2.大人の常駐場所を分散し、敷地全体を見守る
3.建具開閉による、柔軟なセキュリティライン

グラウンドが見渡せ、緊急車両が寄りつけられる場所に保健室を設ける。

配置室や倉庫を集約し、管理車両の動線を1つにまとめて、維持管理を容易にします。

大きな広場と、山から離れ地面から持ち上げられた体育館は、様々な災害から市民を守る避難場所として機能します。

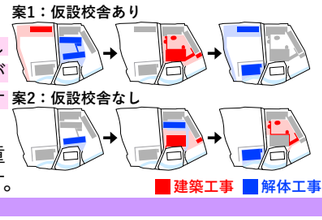




④工事期間中における児童負担の軽減を実現するための提案

安全な建て替え計画

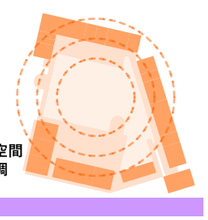
仮設校舎を使用せず慣れ親しんだ校舎で教育を継続しながら順次解体・建築を繰り返す計画も可能です。それにより予算を大幅に削減でき、児童へのストレス軽減を図ります。



⑤その他、独自の提案

環境特性を活かした快適な空間

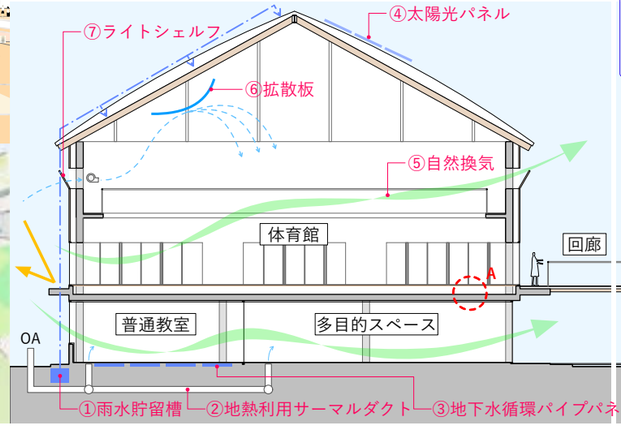
敷地外周より室内→半屋外→中庭の配置がリング状に作られ、熱的な回遊性が生まれます。開放可能な多目的室を南側に配置することで、夏の南南東からの風を中庭に取り込み、快適な環境を作ります。



⑤その他、独自の提案

同種・類似学校と比較し、60%のエネルギー削減

学校建築において消費エネルギーの大きな割合を占める、空調/照明エネルギーを最大限に抑えるパッシブデザインを計画します。気候風土を読み解き、快適な学習環境を作ります。
①雨水を利用した屋根散水、②地熱利用のサーマルダクト、③地下水循環のパイプパネルの利用による輻射冷房、④太陽光パネルパネルによるダブルルーフ効果、⑤自然換気、⑥強制的に外気の拡散、⑦ライトシェルフによる昼光利用

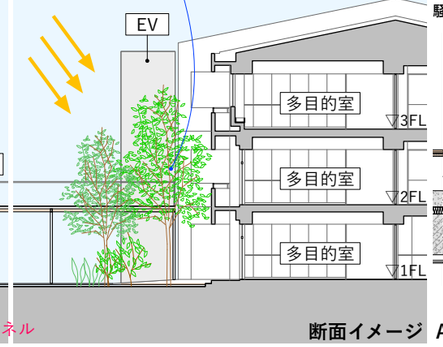
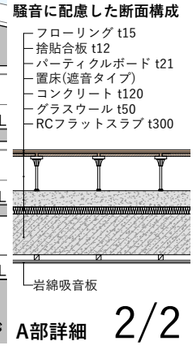


十分な耐震性を確保する合理的な混構造の架構計画

２階建のＲＣ棟と、新旧の校舎を結ぶ木造の回廊空間による混構造の架構計画とします。堅牢なＲＣ棟に回廊空間の地震力を負担させることで、安心安全でありながら、軽やかで開放的な空間を実現します。体育館の屋根には地場産材を用いた木架構とし、建物重量を軽減し、経済性にも配慮します。

既存校舎への環境的な配慮
大きな広場を確保したことで、既存校舎には今よりも自然通風や自然採光を取り入れることができます。夏場の強い日差しに対しては、植樹によって日陰をつくり、南面・西面の非空調エリアの環境負荷を軽減させます。

構造ダイアグラム



躯体に配慮した断面構成